Vol.51 平成 31 年 1 月

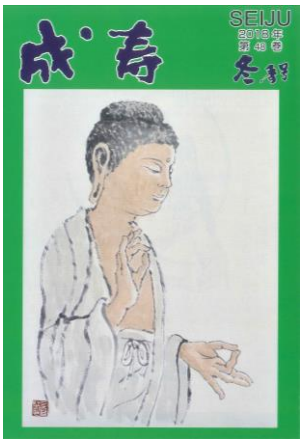
やすらぎ通信

平成 31 年　正月

発刊不定期 横浜やすらぎの郷霊園管理事務所 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町 1749-1
☎045-924-0210　FAX:045-924-0239　ＵＲＬ: y-yasuraginosato.jp　Ｅメール: info@ y-yasuraginosato.jp

縁起だるまを差し上げています
（数量限定）
家内安全・身体健全・合格祈願…
最初はむかって右の目を入れる
来年には両目を入れてお持ち下さい

◇善光寺 季刊誌『成寿』48 巻（平成 30 年冬号）発刊 ⇒



管理事務所に置いてあります。
ご自由にお持ち下さい。

◇善光寺祈祷会のご案内

新しい年の厄除けとご多幸を祈念致します。
ご希望の方にはお札をおつくり致しますのでお問合せ下さい

〇新年祈祷会　１月９日（水）午前 10 時半～
〇節分追儺会　２月３日（日）午前 10 時半～

於 善光寺　港南区日野中央 1-12-9
和太鼓演奏や獅子舞を予定しています。
※霊園への送迎バスはありません。

◇善光寺ホームページ　スマホ版

従来のホームページはそのままに、新しくスマートフォンに対応したページが出来ました。坐禅会や論語講座など各種催事案内などをしています。
ＵＲＬ：https://y-zenkouji.com

□やすらぎ寺子屋のご案内

毎月第３日曜日の午後２時から、椅子坐禅と法話会・茶話会を行っています。
仏教に親しみ、坐禅に触れてみませんか？お気軽にご参加下さい!!
【1 月 20 日（日）　2 月 17 日（日）　3 月 17 日（日）】　※今年は第 3 日曜日です。
午後 2 時～　約 1 時間
場所：やすらぎの郷霊園礼拝堂　参加費：無料

◆お正月さま ～年神さま・歳徳さま～

１年のはじめを祝うお正月。お正月は、新しい年の実りをもたらし子孫の繁栄を見守ってくれる神さま（お正月さま、年神（としがみ）さまとも歳徳神（としとくじん）さまとも呼ばれます)を各家にお迎えする行事でした。年神さまは祖霊神であり田の神、山の神でもあります。その神さまを家に迎え入れ、お祝いし幸福を授けてもらうために様々な行事や風習が生まれました。大切なお客さまをお迎えする「おもてなしの心」が表現されています。時代の変化にしたがい風習も変わっていきますが、代々受け継がれている「おもてなしの心」をみてみましょう。

お正月の「正」には、「年の初め」「年があらたまる」という意味があります。「新魂(あらたま)の年のはじめ」という言葉があるように、「たましいが若返り、新しくなる」一年のはじめの月という意味にもなります。以前は数え年といわれ、誕生日ではなく元旦に皆一斉に歳をとりお正月を祝っていました。一月を睦月と呼ぶことも家族睦まじく年神さまをお迎えすることに由来します。

お正月に食事を頂く際には祝い箸を使用します。長さ八寸は末広がりで縁起よく、両口箸とも呼ばれ両方の先端が細くなっています。それは一方は年神さま、もう一方を人が使うためです。年神さまへのお供えをお下げして食べることで一年の恩恵を授かる意味があるそうです。

年神さまをお迎えする目印として玄関に「門松」をたて、「しめ飾り」を飾ります。しめ縄で作られたしめ飾りは年神さまをお迎えする清浄な場所を表し、古い年の不浄を清め、災いが家に入らないように結界を張る意味があります。「しめ飾り」にはしめ縄に縁起の良い品々で華やかに飾りつけた「玉飾り」やシンプルな「輪飾り」などがあります。

さて、ここで問題です。漢字で「しめ飾り」書けますか？（答えは最終ページに）

扇（おうぎ）:末広がりの繁栄を願う　**橙**（だいだい）:代々繁栄するように

昆布:よろこんぶ!!　**伊勢海老**:長寿の願い

裏白（うらじろ）:後ろめたいこと無きように（裏も表も潔白）

ゆずり葉:新芽が出ても元の葉が落ちずに新芽が育ってから葉を落とすことから、親が子の成長を見守れるようにとの願い

他にも紅白の水引（みずひき）や御幣（ごへい）を飾りお祝いを表します。

鏡餅　家にお招きした年神さまは『御魂（みたま）』（一年分の生きる力）を与えて下さるといわれます。その年神さまの依り代（よりしろ）が鏡餅。そしてこの鏡餅を食べることで更に力を頂くのだと言われます。しめ飾りと同じように縁起がよいもので飾り付けをしますが、その飾り方は

地方によってもだいぶ異なるようです。

干し柿を串に刺したものを飾っている鏡餅をみたことはありますか？柿は「嘉来」に通じる縁起ものといわれます（「嘉」はめでたさや素晴らしさを意味し、それが来る）。串に刺した串柿は剣を表し、「鏡＝鏡餅、玉＝橙、剣＝串柿」で**三種の神器**を表していると言われます。

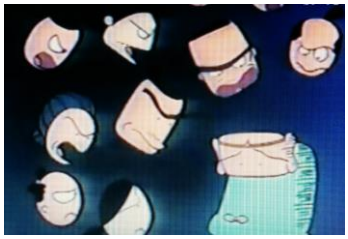
やすらぎの郷管理事務所の鏡餅

また家長が家族に年神さまの力の宿った餅を配ることが『お年玉（魂）』の由来ともいわれています。いつの間にかお餅が金品に代わったようですが、お年玉はもらっても、あげても嬉しいものですよね。

お年玉をもらって子供たちは喜び、その喜ぶ姿をみてあげた大人も喜べます。慣習や義務感のようなものでなく純粋に喜ぶ顔が見たいから行う行為。お年玉だけでなく、他人に何かを与えることで、相手が喜ぶ姿に共に喜べる心。与える喜びを感じることが出来たらいいですね。なにも金品でなくても相手の事を思いやってかける言葉や笑顔をだけでも周りの人はきっと喜んでくれますよ。笑顔の連鎖、喜びが喜びを運んでくるそんな一年になりますように。

年神さまの昔話　（まんが日本昔ばなしより　同ＨＰより）

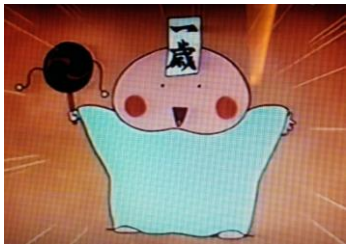
むかしむかし年神さまという神様がいました。年神さまの仕事は年の晩（大晦日の晩）に一軒一軒家を回って年をひとつずつ配るという仕事でした。年を配られるとひとつ年を取ってしまうので村人は年神さまを嫌がっていました。毎年年の晩になると年神さまは、また嫌われるのかと憂鬱な気持ちになって胃が痛くなってしまう、そんな少し気の弱い神さまなのでした。



さて村外れにはお爺さんとお婆さんが住んでいました。この二人も年の晩が近づくとまたひとつ年をとるのかと思い憂鬱な気持ちになっておりました。二人は若い頃を思い出しながら懐かしさに浸っていました。ある年お爺さんとお婆さんは、年神さまから年を貰わないで済む方法がないものか一生懸命考えました。

その年の年の晩のこと、年神さまは痛む胃を押さえながらも人々に年を配る準備を始めました。年神さまは次々に人別（にんべつ）帳の名前を呼び、袋の中へ人々に配る年の札を入れ、重たい足取りで村に向かい年を配り始めました。

年神さまが年を配っているちょうどその頃、村外れのお爺さんとお婆さんは家を抜け出して少し離れた竹やぶに身を隠すことに決めました。



年神さまは年を配ると嫌がる村人を見ては段々元気が無くなっていきました。でもそんな中にも、年神さまをありがたがる老夫婦や喜ぶ子供たち、そして年を貰うことによって立ち上がることが出来る赤ん坊に感動し、年神さまは段々と元気になってきました。除夜の鐘が鳴るまでに皆に年を配っておかないと正月が来ても年を取らないことになるので、年神さまは急いでお爺さんとお婆さんの家へ行きました。でも家には誰もいません。

さあ、大変な事になってしまった。二人に何とか年を配らねば、と年神さまは焦ってあっちこっち探し回りますがどこにも見当たりません。もうすぐ年が明けてしまう。弱気な心が働いた年神さまは「もう止めた!!」と誰も見ていないのをいいことに、残った二枚の年札をあろうことかポイと捨てて帰ってしまいました。

でもアラ不思議。何と捨てたはずの年札は偶然空からヒラヒラと舞い降りて、竹やぶの中にいたお爺さんとお婆さんの元に届いてしまいます。こうして竹やぶに逃げ込んだお爺さんとお婆さんも結局は年を一つ取ってしまいましたとさ。その後も二人は仲良く元気に暮らしたそうじゃ。おしまい

弱気な神さまとは面白いお話ですね。年を取りたくない村人の気持ちもわかりますが、幾ら嫌でも時間を止めることは出来ず、年はとるものですね。良い年を積み重ねていけたらと思います。もうひとつ家にくる神さまのお話を紹介します。

ある家にとても美しい女性が訪ねてきて言いました「私は吉祥天。福徳を授けに来ました。」幸福の女神の到来ですからその家の主人は大いに喜んで招き入れたところ、後ろから見るからにみすぼらしい女性が続いて家に入ろうとします。「ちょっと待て。おまえは誰だ。」と問うと、「私は黒闇天。私の行くところ、必ず災厄がおきる貧乏神です。」と言います。貧乏神に家に入ってこられてはたまりませんから主人は、「おまえは入るな。とっとと消え失せろ。」とどなりました。すると黒闇天は大声をあげて笑い「あなたは愚かですね。先に入って行った吉祥天は私の姉。私達姉妹はいつも一緒に行動します。私を追い出せば姉の吉祥天もこの家から出て行くことになりますよ。」そしてその通りに吉祥天と黒闇天は肩を並べてその家を去って行きました。

禍福はあざなえる縄の如し。一喜一憂せずに生きたいものです。
昔の人は神さまや自然や目に見えない力などからの恩恵を受けて生きている感覚が強かったのでしょう。お話に登場する神さまはいろいろなことを教えてくれています。

編集後記：新年明けましておめでとうございます。お正月の風習や由来を紹介しましたが、その土地によって風習は様々です。おもしろい風習があったら是非教えて下さい。お待ちしています。■昨年の漢字は「災」という字でしたが今年は「災い転じて福となす」一年となりますように。本年もよろしくお願い致します。

「しめ飾り」漢字では「注連飾り」と書きます